

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切にし社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	--

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A: ほぼ達成 (90%程度) B: 概ね達成 (70%程度) C: まだ不十分 (50%程度) D: 方策の見直し (30%以下)

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着(主に英語・数学)が充分とはいえない。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開が図れる。	○入学時から、試験及び検定のスケジュールを念入りに確認し、いつ何をすべきかを理解させる。 ○支援が必要な場合、どのようなサポートがあれば意欲になれるのかを本人と確認を取りながら進めていく。	○前期試験の予定を入念に確認することで、計画的に学習に取り組みることができた。 ○レポート用紙をB4からA3へ、必要な生徒にはルビ有の対応をした。	B	○引き続き、予定を入念に確認し、レポート用紙はA3で、ルビが必要な生徒にはルビ有の対応をする。	B	○ルビ対応等具体的支援が必要な生徒には個々の対応ができた。	○1年間の流れを丁寧に説明し、試験やスクーリング等単位に大きく関わるものへの出席を促す。
	○授業の質の更なる向上	○生徒を引き付ける授業の工夫が必要。	○生徒の情報を共有し、授業の質向上のために、職員の自己研鑽が日々行われている。	○担当教科だけでなく、教科横断的な視点で、教員同士連携を取り、授業にいかす。	○午後の活動の授業(体育・選択)において、興味や経験のなかった生徒も、教師が中心になってコミュニケーションを図り、楽しく活動に取り組ませることができた。結果として「全国専修学校体育大会フットサルの部第3位」「倉吉打吹まつりWASSO第3位」を獲得できた。 ○国語と総合、広告と家庭科等、複数教科担当のメリットを活かし、教科横断的な取り組みができた。	B	○体育にダンスの選択肢を増やし、生徒の興味をより引き出していく。 ○他教員との連携をさらに密にする。	○体育、選択授業の内容から全国大会等につながり、生徒の可能性を広げることが出来た。 ○職員が資格取得にチャレンジすることもできた。	○魅力ある授業展開を図っていく。 ○職員の自己研鑽を続ける。	
	○資格取得率の向上	○漢字検定3級以下合格率36%、準1級1名、2級1名、準2級2名合格。 ○パソコン検定3級以下合格率42%、2級1名、準2級2名合格。	○漢字検定およびパソコン検定3級以下の合格者が50%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。	○過去の合格者数を掲示し、検定試験に向けての意欲を高める。	○合格者の掲示ができていない。漢字検定3級以下合格率18/35人51%。準2級合格者2名。(R1.6)パソコン検定3級以下合格率19/34人55%。合格者2級1名、準2級2名。	○玄関に上位級(準2級以上)の合格者を掲示し、生徒のモチベーションアップを図る。	B	○玄関に検定上位級合格者の掲示。 ○漢字検定3級以下合格率50%、準2級2名合格。 ○パソコン検定3級以下合格率52%。2級1名、準2級4名合格。	○玄関に検定上位級合格者を掲示し、視覚化することで生徒のモチベーションアップを図る。 ○漢字検定およびパソコン検定3級以下の合格率が55%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。	
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上	○ルールを守りにくい生徒は数人だが固定化されている。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣が身に付いている。	○固定化された生徒について服装検査日に関わらず、指導を継続する。	○服装検査日にひっきり、週明けに欠席する生徒がいる。	C	○毎朝、玄関先で職員が挨拶と共に服装チェックをする。服装検査1週間前には、ひっきりそうな生徒には声をかけておく。 ○毎朝の玄関での職員の挨拶をしていく。	B	○服装検査でひっきりかかる生徒が減り、翌週に持ち越す生徒も減った。	○服装検査の後にひっきりかかった生徒を残し、どこを直すのかを自覚させる。
	○積極的な挨拶の定着を図る	○集会やクラスでの挨拶は向上している。が、駅や玄関先での挨拶は個人差が大きい。	○挨拶をする習慣が身に付いている。	○職員が個別に名前を呼んで継続的に挨拶をする。	○毎朝の玄関先に出でる職員の挨拶ができていない。	C	○継続して、みんなで協力する環境を作り、欠席者の掃除場所を生徒同士で補い合えるようにしていく。	B	○玄関先での声かけをすることで、身だしなみを整えられるようになった。	○玄関先での声かけの継続。
	○清掃活動の習慣化校舎内の清掃等、環境整備が十分に行われている。	○清掃場所を固定化することで、人任せにする生徒も減った。	○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。	○協力して清掃することが難しい生徒は、掃除場所を固定化し責任を持ってできるような環境を作る。	○掃除時間に音楽も活用し、みんなで協力する環境を作った。欠席者の掃除場所を生徒同士で補い合うことができるようになった。	○継続して、みんなで協力する環境を作り、欠席者の掃除場所を生徒同士で補い合えるようにしていく。	C	○年度当初は雑巾を持ったまま何をしていいかわからなかった生徒も、自主的に清掃を行えるようになった。	B	○年度当初に掃除場所、やり方を丁寧に確認し、生徒自身で動けるようにする。
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○保護者アンケートでは、90%の保護者が学校に対し「相談できる」「理解してくれている」と解答。	○生徒同士、生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気がある。	○保護者アンケートの継続。 ○「ソフトなタベ」の継続。	○保護者アンケート1月実施予定。 ○「ソフトなタベ」は継続しているが、参加者が固定化されつつある。	B	○予定月にアンケートを実施する。 ○「ソフトなタベ」に参加したことのない人に足を運んでもらうため、イベント(ヨガ等)を企画する。	B	○1月にアンケートを実施。91%の保護者が「入学させてよかった」と回答。 ○「ソフトなタベ」は参加者が固定化。	○保護者アンケートを年2回(前期・後期)に増やし、継続。 ○隔月で曜日を変え、参加を促す。
	○クラスでの仲間作り	○コミュニケーション能力・語彙力の低い生徒がみられる。	○周囲を思いやる言葉使いができる。	○生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の状況を把握する。また、生活や授業の中でコミュニケーションについて伝えていく。	○荒い言葉を使う生徒は減っている。人との距離感をうまく取れない生徒が増えている。 ○勉強室を利用する生徒が固定化され、増えつつある。	B	○個人面談で生徒の困りごとを確認する。トラブルがあった場合はその都度どうすればよかったのかを確認する。 ○授業毎に教室に戻れる工夫をし、声かけをする。	B	○乱暴な言葉は聞かれなくなった。 ○勉強室終日利用の生徒は減った。	○人間関係の固定化の枠を外し、仲間の輪を広げられるよう働きかける。 ○授業内容や雰囲気によって教室に入れないことがあるので、その都度相談し、学習場所の確認をする。
	○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	○視野が狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。 ○自己理解が乏しく、なりたいたい自分が見えていない生徒が多く見られる。 ○漠然とした目標のため具体的な行動を起こせていない生徒がみられる。 ○実力と目標とのギャップがみられる。 ○地域ボランティアへ積極的に参加する生徒が少ない。	○生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。 ○自己を理解し、理想の自分を見つけている。 ○自らの進路について真剣に考えることで、具体的な行動を起こしている。 ○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢がある。	○学校見学、出前授業、職業人講話の提供。生徒にも希望職種アンケートを実施する。 ○進路研究の時間を増やし、自己理解の時間を意図的に作る。 ○いつまでどうなっていたいのかのイメージを具体的に持たせ、計画的に動けるようにする。(オープンキャンパス、資料請求、求人検索、面談練習等) ○ボランティア活動の啓発、案内等情報提供することで生徒の興味関心の幅を広げる。	○アンケート未実施。 ○進路や習熟の時間を使って、個人面談や自己分析、自己理解をはからせることができた。 ○自分の理想のスケジュールを立てさせることで、春休み・夏休みを活用して、オープンキャンパスや職場見学に行かせることができた。*進路決定数(3年):就職0/11名、進学6/10名 ○地域イベント活動、小学生と関わる活動、高齢者施設での活動、清掃活動等、情報を提供することで興味のある分野へのボランティア参加を促すことができた。	○アンケートを実施する(1月予定) ○3年生は自分事として進路について考えることができていたので、自分の計画で引き続き動けるように促していく。 ○1、2年生においても、進路調査を定期的に行ない、早い段階で次の進路を明確にさせていく。 ○今後も地域イベント活動、小学生と関わる活動、高齢者施設での活動があるので、情報提供、参加促進を行っていく。	C	○1月に生徒アンケートを実施。 ○3年生進路決定20/21名(95%)。 ○1、2年生も進路調査アンケートを実施し、次学年に向けての行動につなげる準備ができた。 ○様々なボランティア活動に参加することで、生徒の経験値を増やし、地域貢献をすることが出来た。	B	○アンケートをもとに、学校見学、職場見学の計画を立案する。 ○年間を通してのキャリア教育を視覚化する。 ○進路実現に向けたアルバイト経験を促す。 ○継続したボランティア活動を行っていく。またボランティア参加の生徒を視覚化し、学期末にボランティア表彰を実施する。